

# 母の 669 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

季節のともだち⑦／谷本雄治 2  
わたしの原風景⑫／得田之久 3  
こどもに向けた言葉の力／新沢としひこ 4  
『ねこなんていなきゃよかった』刊行記念インタビュー／村上しいこ 6  
新刊紹介／本多慶子 7  
イラスト／どいかや



## あなたをみてるよ

山本悦子

もう15年以上前のことになる。通勤途中、車の中からいつも見かける女の子がいた。その子に目がいったのは、両脚に歩行をサポートする装具をつけていたから。当時教員をしていた私のクラスにも、同じものをつけている子がいたので気になったのだ。私が彼女を見かけるのは、いつも長い坂の途中。車で下っていくと、上ってくる彼女とすれ違う。坂は長いだけでなく急勾配で、しかも上り切ったところには歩道橋の階段が待っている。健脚な子でも辛い通学路だ。初めて見かけたときは1年生で、毎朝お母さんと登校していた。ランドセルはお母さんの手にあった。でも、2年生になると彼女はランドセルを背負い、ひとりで登校しはじめた。両肩を大きく左右にゆらしながら、懸命に坂を上ってくる姿を見かけるたび、車の中で「がんばれ」とつぶやいた。友達と話しながら歩いていると、妙にうれしかった。雨の日は、心配になった。もちろん声をかけたことはないし、目が合ったことすらない。ただ一度、坂の途中で座り込んでしまっているのに気づいて、近くにいた交通指導員さんをお願いしたことがある。「様子を見てきてくれませんか」。学年が上がり、登校の時間が変わったのだろう。見かけることが少なくなった。その後、私は教員を辞め、女の子を見かけることがないまま数年が過ぎた。そんなある日のことだ。犬の散歩の途中、偶然、お母さんといっしょに出かけていく彼女とすれ違った。大きくなってはいたけれど、すぐに気づいた。彼女は、高校生になっていた。横を通ったとき、「ああ、こんなに背が高くなったんだな」と思った。お母さんと笑顔で話している彼女を見て、元気そうでよかったとしみじみ思った。頑張ったんだね。あなたは気づいていなかっただろうけど、ずっと見てたんだよ。

『がっこうかっぱのおひっこし』では、自分のことなんて誰も見ていないと考えている男の子が出てくる。けれど、実際にはがっこうかっぱが、友達が、お母さんが、自分を見ていてくれたことに気づく。誰もが、「自分の本当の姿や思いに誰も気づいてくれない」「自分はひとりぼっちだ」と思うときがある。でも、そんなことはない。頑張っているとき、悲しんでいるとき、笑っているとき、必ず誰かが見ていてくれる。私が、あの女の子を見ていたように。声にならない応援をし続けていたように。ひとりじゃないよ。子どもたちにそんな思いを届けられたらいいなと思う。

(やまもと えつこ／児童文学作家)

季節のともだち ⑦

冬 植物

うたかたのサイカチ豆

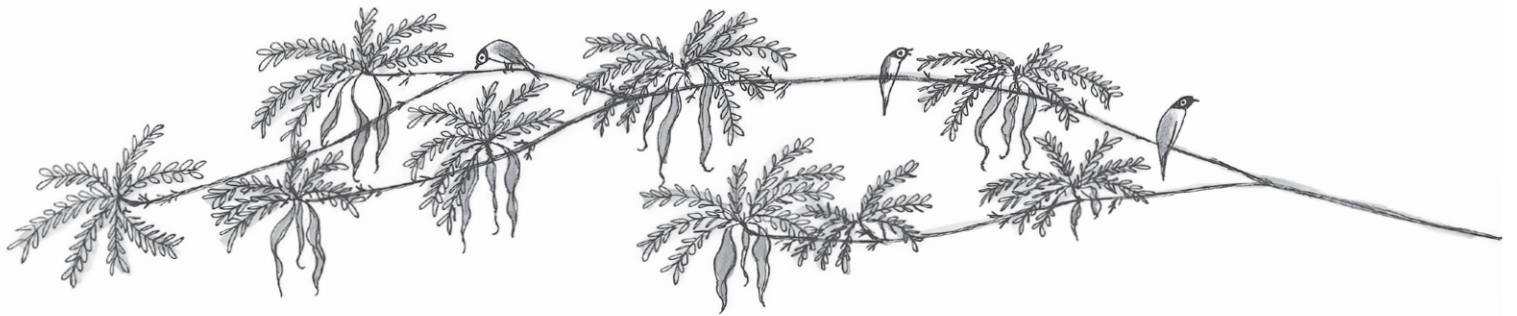
サイカチを覚えてくれたのは、宮沢賢治だった。その名をかぶせた作品『さいかち淵』にひかれて図鑑で調べると、幹には鋭いとげがあると書いてあった。

賢治は子どもたちをその木に登らせたが、けがはしなかったのだろうか。そんなことを気にしながら先を読むと、腫れものの膿を出すのに用いたこと、「さいかち虫」がカブトムシの俗称であること、実がせっけんの代用になるといったことが記されていた。

写真を見ると、ねじれたような形のさやがいくつも垂れ下がっている。それを実と称し、その中におさまる数個の種とともに煮だして、洗い物に使っらしい。

まさに、生活の知恵である。汚れがどれほど落ちるのか、無性に試したくなった。

強く念じたおかげか、散策の途中で見る機会があった。だが、数が少ない。しかもたいていは朽ちかけていて、それとわかる程度のさやだった。



イラスト／大野八生

谷本雄治

たにもと ゆうじ／プチ生物研究家・作家。身近な生きものとの共著に『牧野富太郎ものがたり—草木とみた夢』（出版ワークス）『週末ナチュラルのすすめ』（岩波科学ライブラリー）『ちいさないきものずかん』シリーズ（童心社）などがある。

幸運に恵まれたのは、数年前のことだ。冬のさなかに訪ねた右手真の農家の庭に大木があり、根元には大量のさやが散らばっていた。家主の厚意に甘えてひと抱えも譲っていただけ、嬉々として持ち帰った。

さやを刻んでぬるま湯につけ、そのためにわざと汚した布を「ごしごし洗った。サポニンという成分のもたらす泡の中で、予想以上にきれいになっていく。

」子どものころはよく、髪を洗ってもらいました。いまでも漆器洗いに使う人がいるんですよ」。七十代の婦人の体験談が実感できた瞬間である。

日本人は古来、自然を敬い、その恩恵にあずかってきた。しかし科学ということばの陰で、その貴重な資源やノウハウが急速に失われつつある。油を搾り、ろうを採った植物、生活を支えた草木の知識・体験がまたあるうちに、できることはないものか。いまも部屋に飾るサイカチ豆を見ては、自問する毎日である。

# わたしの原風景

## 12 得田之久

とくだゆきひさ／絵本作家



イラスト／石川えりこ

僕の少年期を過ごした地は神奈川県茅ヶ崎である。茅ヶ崎といえ  
ば、今では湘南と呼ばれ文化的でお洒落な所と思われる。しかし  
その頃の茅ヶ崎は豊かな自然が残るのかな地方都市であったので、  
この地で育った者はこの呼び名に違和感があり、今でも仲間たちが集  
まると「僕らは湘南先住民だよね」と話している。

僕らの少年時代は戦後の混乱期で、親たちは生活に追われていたの  
で子どもたちは大いに自由を謳歌していた。特に夏休みの僕らの遊び  
方は、現在の子どもたちには想像もつかない野蛮で破天荒なもので  
あった。

ギンヤンマを追いかけたり（足元を見ないで肥溜めに落ちた。田ん  
ぼの畦道を壊して農家の人に追いかかれた）、木の上に秘密基地を  
作ったり（沢山乗り過ぎて床が抜け二名負傷）、海岸に落ちている流  
木で筏いかたを作りリヤカーに乗せて数キロ先の溜め池まで運んだり（見事  
に沈没して溺れかけた）、丘の上に建つお稲荷さんの祠の下に隠れ  
家を作ったり（天井の土が崩れ祠が傾いて大目玉をくらう）等々。

あの頃の僕は正にトム・ソーヤであり、友人たちは皆ハックルベ  
リー・フィンだった。そんな遊びの中で夏休みの最大のイベントは、  
僕らがよく遊んでいた小川（幅は二メートル、深さは僕らの膝小僧  
位）をせき止めて魚を獲る遊びであった。日照りが続いた夏の後半、  
小川の水量が減ると十数人の子が小川に集結（当時の子どもの世界は  
縦社会がなく、年齢の違う男の子も女の子も集団で遊んでいた。根  
に土が着いた草や板きれを利用し、見事な連携プレーで小川をせき止  
めると俊敏で足の速い選ばれた子がバケツを持って川下に走り出し、  
干上がった川から、普段では捕まえる事の出来ない大きな鮒や鯉や鰻  
などを捕まえるという遊びであった。

あの頃の夏休みの強烈なエピソードとその時感じた思いは僕らの個  
性を養い、身体の中にくっきりと年輪となって残り、その後の人生の  
失敗や挫折に負けられない力となっていると思う。

●僕に「うた」「こどものうた」

「こどものうた」を作る仕事に関わるようになって、三十年以上経つ。主に作詞を担当してきたので、「どんな言葉をこどもたちは喜んでくれるのか、歌ってくれるのか」と試行錯誤しながら歌を作ってきた。「こどものうた」とは、こどもたちが歌う歌のことだ。童謡やキッズソングという呼び方もある。

歌うということは、感情も声にのせて届けるというところ。悲しい、うれしい……そういった感情が言葉だけでなく、肉体で表される。たれかと一緒に歌うということは、その感情を共にし、心をかち合わせるというところだ。それはこどもたちだけでなく、人間にとってすてきな体験だと思つた。

僕はそもそもこどものうたというものがとても好きで、中学生になってもテレビの「ママとあそぼう」や「ペンポンパン」(NHK)を書きで観ていたし、高校生、大学生の頃には自分でこどものうたを作るようになって、いつのまにか仕事としてこどものうたに関わるようになった。

自分の心の中には、こどものうたの言葉の海のようなものがあると僕は思っている。その海で泳ぎながら、僕は新しい

# こどもに向けた

## 言葉の力

### 新沢としひこ

シンガーソングライター、こどものうた研究所所長／一九六三年東京生まれ。シンガーソングライター。学生時代より音楽活動を始める。保育園勤務の後、CD、楽譜集、絵本など幅広く活躍。作詞の「世界中のこどもたちが」は小学校音楽教科書に掲載された。絵本に『おがみちようだい』(童心社)、詩集に『空にぐーんと手をのばせ』(理論社)、エッセイ集に『言葉少年』(クレヨンハウス)、紙芝居に『おはようパワー』『みんなであたいそう』(いずれも童心社)など多数ある。



イラスト/といかや

歌を考える。さて、その海は何でできているのか。それは僕が、幼い頃から親しんできた歌、絵本、童話、映画、テレビ、演劇などからの、さまざまな刺激がこちやませになってきているのだ。特に僕は「言葉」が好きだったので、自分がこどもだった頃に吸収した言葉たちが今、創作活動をしていく時の大切な土台になっている。こどもの頃に本を読むって大事だよなあ、と僕は思つたのだ。

●「こどものうた研究所」の立ち上げ

今まで千曲あまりの歌を制作する中で、思ってきたこと、感じてきたこと、学んできたことがたくさんある。それをそろそろ整理してみる頃かと思ひ、昨年「こどものうた研究所」を立ち上げた。

その研究所で、まずは現在市販されている童謡・こどものうたの楽譜集、CDなど、どんな歌が収録されているのか、統計をとってみた。

上位十一曲を見てみると、こどものうたというのは非常に息が長い、といつのことがわかる。ほとんどが昭和の歌で、明治や大正の歌まである。それらの歌が、まだまだちゃんと現役で、今も歌われているというものは素晴らしいことだ。

行事の歌は外せないもので、どうしても決まった歌が入ってしまうとか、さまざまな理由はあろう。聴きなじんだ歌が安心して良いということもあるかもしれない。こどものうたの楽譜集やCDを購入するのは大人なので、こどもの頃に歌った歌を選ぶということもあるだろう。こどもの文化というのはランキングの動向がゆるやかなのである。

絵本の世界でも何十年も売れ続けている作品がたくさんある。しかし、新しい絵本作家もたくさん登場し、ベストセラーになっている新しい絵本もたくさんある。それにひきかえ「こどものうた」の方はどうだろうか？

平成は三十年あったにもかかわらず、平成の時代に生まれた歌はランキングには全然入っていない。「二十五位に『じ』(新沢としひこ)作詞、中川ひろたか/作曲、平成三年)が入ってくる」とどまっている。平成にも良い歌はたくさん作られ発表されてきたはずなのに。

年月を重ねて、じわじわと平成の歌たちも今後ランキングを上げてくるかもしれない。未来はどうなるかわからないが、今、こどものうたに関わる時、新しい世界を切りひらいていくと同時に、いつの時代も変わらぬ、こどもにとって大切な気持ちや普遍性について考え、向き

こどものうたランキング (童謡・こどものうたの書籍、CDに掲載数が多い曲)

1位	こいのぼり	近藤宮子/作詞 作曲者不詳	昭和6年
2位	うみ	林柳波/作詞 井上武士/作曲	昭和16年
3位	さんぼ	中川李枝子/作詞 久石譲/作曲	昭和63年
4位	アイアイ	相田裕美/作詞 宇野誠一郎/作曲	昭和37年
5位	うれしいひなまつり	サトウハチロー/作詞 河村光陽/作曲	昭和11年
6位	一年生になったら	まど・みちお/作詞 山本直純/作曲	昭和41年
6位	おばけなんてないさ	榎みのり/作詞 峯陽/作曲	昭和41年
6位	たなばたさま	権藤花代・林柳波/作詞 下総皖一/作曲	昭和16年
9位	お正月	東くめ/作詞 滝廉太郎/作曲	明治34年
9位	シャボン玉	野口雨情/作詞 中山晋平/作曲	大正11年
9位	世界中のこどもたちが	新沢としひこ/作詞 中川ひろたか/作曲	昭和62年

「こどものうた研究所」調べ、2018年

合っというくとも重要だと思っっている。

●こどもに向けて歌を作るって

「昔からある質の高い童謡をこれから歌い継いでいこう」という運動も大切な一方、今のこどもたちに合った、新しい

と目を輝かせて歌うような歌が、今までも、そしてこれからも求められていることは間違いない。

小さいこどもに向けて歌を作るとき、使える言葉はとも少ない。難しい言葉は使えないからだ。だからといって、表現できることの範囲が狭いわけではない。少ない言葉を使って、のびのびとした広い世界を表現するために、これまで試行錯誤してきた。歌が歌えるから、作詞をしているからといって、簡単にこどものうたを作ることができるわけではないのだ。でも、歌だからこそできることが、いろいろある。例えば、同じフレーズをくりかえすこと。前述の『じ』は三番までであるが、歌詞が違うのははじめの二行だけで、あとは全部同じだ。一番、二番、三番で歌われる、虹がかかっている状況や場所は違う。でも、同じフレーズが繰りかえされることで、そのことが同時におこっているひとつの大きな世界が見えてくる。短い言葉でも表現できることがたくさんあるのだ。

うたや絵本や紙芝居や……こどもに向けた言葉をうみだすとき、その形でこそ発揮できる力がある。こどもに向けた言葉の力には、たくさん可能性がある。これからも新しい歌を作りつけ、こどもたちに届けていきたい。

——この作品が生まれたきっかけを教えてください。  
わが家に、ミッケちゃんという女の子の子の猫がいます。今二十一歳（人間だと百歳）です。一昨年初めててんかんの発作を起こしたんです。けいれんして、この子はもうダメかもと思いました。その時初めて、目の前にいるこの大事なみけちゃんへの死というものを感じたんです。この子の生きている姿をちゃんと見てあげなきゃいけない、命に向き合わなきゃいけないと思いました。

それと、同じ頃に友だちの飼っているワンちゃんや猫ちゃんが亡くなってしまつことが続いたんです。自分の大切な家族を失つてしまつたらさや悲しさを目の当たりにして、友人たちはどう声をかけたらいいのかわからなかつたんです。そういう時に例えば絵本があれば、気持ちを伝えることができるかな、伝えられたらいいな、そう思ったのが作品が生まれた最初のきっかけです。

——今作は子どもの目線から短い言葉で描かれていますね。

主人公の女の子が口に出してしまつ「ねこなんて……いなぎゃよかった」という言葉があるんですけど、これは無意識に自分の心の悲しみにふたをしてしまつことなんですね。そこからラストの「ねこなんていてくれてよかった」にたどりつくまで、悲しみをのりこえていくこと、悲しみを向き合つたことを、作品の中であるべく丁寧に描くことを心がけました。

子どもたちはこれからの人生、たくさんのお

# 『ねこなんていなぎゃよかった』

## 刊行記念インタビュー 村上しいこ



ねこなんていなぎゃよかった  
村上しいこ／作 ささめやゆき／絵  
本体1,300円＋税



昨年十二月に刊行された絵本『ねこなんていなぎゃよかった』。小学生のわたしと、家族で大切に飼っていた猫、もちちゃんとの別れを描いた絵本です。作者の村上しいこさんに、この作品について伺いました。



対談全文はこちらからご覧いただけます  
<https://www.doshinsha.co.jp/news/detail.php?id=1815>

しいい出会いもあるけれど、悲しい喪失もあるわけです。悲しいこと、つらいことがあった時、最近「子どもトラウマになってしまつ」と思ってしまった、そうしたことに触れる機会をなくしてしまう傾向にあります。私は逆に考えていて、自分よりも弱い尊い小さな命が目の前でなくなっていく時の命との向き合い方、悲しみを乗り越えていく心の基盤を子どものうちに持つておいた方がいいと思っています。そういう役割もこの絵本は持つていてと思います。

——読者へのメッセージを教えてください。

自分の大切な家族がいなくなってしまう時、喪失感を癒やす時間も必要だけれども、自分だけでこらえているのではなくて、なによりも思い出を共感、共有できる人との時間を、たっぷりと、ゆっくりと持つてほしいです。それは、SNSでいいと思うんです。悲しいってことは、そこに愛があるからだと思うし、悲しいってことは病気でもありません。誰かに話すことで、ひとつひとつ自分の中で、整理されて、ちゃんと、あるべきところにおさまると思うのです。私は「ペットが今は空の上で、私を見守ってくれている」そう考えることも、いいことだと思います。

死んでしまうことは、たしかに悲しいことだけれど、否定することじゃないし、何かでふたをしてしまつのは、もっとよくないことです。死んでしまつことは、生きていられると、同じくらい尊い意味があることだと思っています。（聞き手 編集部）

本  
多  
慶  
子

# 50年の時を経っても 色あせない、 せなけいこさんの 作品の魅力！

せなけいこさんの最新作『いらっしゃい』は、数10年も前に制作された原画をもとに制作されたあかちゃん絵本です。「いやだいやだの絵本」シリーズ（福音館書店）などの絵本を担当した元福音館書店の編集者で、せなさんとプライベートでも親交の深い本多慶子さんに、本作の魅力を紹介していただきました。



いらっしゃい  
いらっしゃい  
いろいろな おみせが  
あるよ。  
いらっしゃーい！

いらっしゃい せなけいこ／さくえ 本体900円＋税

私がせなさんと出会った頃、せなさんはまだデビュー前で、童画家の武井武雄さんの弟子として学んでいました。また、言語学者の千野栄一さんにチェコ語を習われていました。せなさんは、チェコ旅行に行くことになった私に、困らないようにとチェコ語の単語集を作って下さったりと大変にご親切でした。

他にも、比較文学者でケルト文学の研究者・井村君江さんにケルト妖精文学入門を教わったりと、せなさんは、興味や関心が幅広い勉強家でした。旅行に出かけると、必ずその地方の石ころを集めて、おみやげとしてくださいました。

そんなたくさんの引き出しを持ったせなさんですから、『いらっしゃい』のような、楽しいおみせやさんごっこが描けるのでしょう。

『いらっしゃい』の絵本が生まれたきっかけは、昨年、童心社の原画室から縦六二、横七四センチほどのある「掛図」(\*)のための大きな原画が発見されたことでした。この絵をせなさんが描いていたのは、『いやだいやだ』などを制作していた時期、今から約五十年前のことでしょう。当時子育て真っ最中だったせなさんが、小さな子どもたちとの交流の中で、この絵を描いたのではないかと思います。

『いらっしゃい』のブックデザインは、谷口広樹さんが担当されました。数十年を経た状態は良いとは言えない絵ですから、谷口さんがデータを丁寧に調整され、当時の色彩を引き出したといえます。現在の絵本作りでは、印刷技術が発達し、ブックデザイナーの力がとても大きいのです。貼り絵の味がとてもよく出ていて、あたたかみがあり、五十年前の絵とは思えない仕上がりにです。

絵本作家デビュー五十周年を迎えたせなさんの、デビュー当時の絵がこっぴど絵本になることは嬉しいです。あかちゃんが目を光らせて見ること間違いなしです。

(ほんだけいこ編集者)

\*掛図……園や学校の教室に掲げて用いられる、大きな絵や図表のこと。

# 2月の新刊図書!

## 読者の声

ハートウッドホテル

### ④ねずみのモナと永遠のわが家

ケイリー・ジョージ／作  
久保陽子／訳  
高橋和枝／絵  
本体価格 1300円+税

巨大な山火事が起き、火の手がホテルに迫るなか、ハートウッドさんが行方不明に!? モナの家族の秘密も明らかになる最終巻。



沖縄の自然が、米軍基地の存在によって理不尽に壊されていく現実を私たちはもつともっと深く関心を持つて見つける必要があると思いました。  
(兵庫県 K・M 四六歳)



童心社の絵本  
やんばるの少年  
たしまゆきひこ／作  
本体価格 1600円+税

14ひきのシリーズ  
14ひきのさむいふゆ  
いむらかずお／著  
本体価格 1200円+税



娘は、三歳の時から、絵本をよく読むようになりました。たくさん絵本の中でも、『14ひきのさむいふゆ』がお気に入りです。お出かけするときなど、しっかりと抱きかかえています。くんちゃんに自分をかかえているようです。中に出てくる、かわいいてんと虫など、細やかな描写が気に入っています。  
(兵庫県 M・O 二〇歳)

七歳の息子が、塾の教室で貸していた『14ひきのシリーズ』をとても嬉しそうに何度も読んでいたので、『14ひきのさむいふゆ』を選び、購入しました。兄弟がたくさんいるので、名前をあとつこしながら読んでいます。  
(愛知県 S・U 四一歳)

実家の母が本屋で「14ひきのシリーズ」を見つけて、「絵がとても素敵なよ」といって一冊買ってくれました。私もとても気に入って一冊ずつそろえ始めたところですが、子どもたちはかわいねずみたちや、こっそり隠れている虫をさがすのが大好き。私は植物の絵が好きです。これからも素敵な続編を楽しみにしています。  
(北海道 K・K 一九歳)

おいしいもたち  
おもちさんがね  
とよたかずひこ／著  
本体価格 850円+税



私たちの保育園では、月に一度、職員が絵本紹介をしています。本探しをしていると、かわいい表紙の絵本を見つけ、中もかわいいで、さっそく購入。紹介する前にクラスの二歳児クラスの子ども達に読み聞かせをする、皆ジッと見入っていました。後日、二回目に読む時には「ほかほか」「ちりちり」をいっしょに読みました。みんな楽しんでくれます。素敵な本をありがとうございました。  
(神奈川県 M・S 五八歳)



童心社のおはなしえほん  
きらいきらい!  
武田美穂／作・絵  
本体価格 1300円+税

題名にハッとします。子どもたちは「きらい」を言うのはいけない言葉のように思っていて、はっきり言えずに日常を過ごしているのでは……と思う場面が時々あります。ママが「大人になればできるようになる」「今はできなくても大丈夫」と励ましてあげるのが大切ですね。六歳の孫も「はく、そのうちできるよ」と言います。  
(広島県 K・K 六五歳)

## あとがき

●子どもの頃から終生飼育委員を標榜していたので、生き物の死にも数々遭遇してきました。取り返しのつかないことがあると知るの、否応なく時は流れていくのだと思い知らされることであり、自分自身も変わっていく＝成長していくのだという実感に繋がっていたような気がします。血の通った生き物に愛情を注ぐのは、とても大事なことに思えます。◎

●知り合いではないけれど、よくすれ違ったり、見かけたりする人たちがいます。通勤途中に、行きつけの喫茶店に、銭湯に。何も知らないそれぞれの人のこれまで生きてきた時間を想像すると、自分がそこに居合わせることに素直に感動します。新しい物語が生まれるかもしれない可能性に身を委ねてみることは、とても豊かで心地よいです。㊦

2020年2月15日発行(毎月刊)

母のひろば 第669号  
定価50円(年600円/送料とも)

発行所: 童心の会  
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6  
株式会社童心社内  
電話: 03(5976)4181  
03(5976)4402(編集)  
編集発行人: 大熊悟  
童心社のホームページ:  
<https://www.doshinsha.co.jp/>  
デザイン: 谷口広樹

### 定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。



【お詫び】前号(668号)7頁にて、「小さな丸い図書館」館長の御名前に誤りがございました。正しくは「ジュリアン・マレシャル館長」になります。謹んでお詫び申し上げ、訂正いたします。